

株式会社 読売新聞東京本社

メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科

3年 正木 雄太

1. 実習企業（団体）の概要

世界最大の発行部数を有し、140年以上の歴史がある全国紙。1874年に創刊され、題号は江戸時代の「読みながら売る」かわら版に由来。1923年の関東大震災、1945年の空襲による2度の本社焼失という困難を乗り越え、明治、大正、昭和、平成の4代の歴史を紙面に刻んできている。読売新聞の特徴は、充実した報道と明快な主張にあり、数々のスクープで国民の「知る権利」に込めている。また、少子高齢社会の急激な進展を見据えて医療、社会保障、教育の各分野に取材専門部署を置き、読者のニーズに合った紙面を届けていることにも支持を得ている。

- ・創立 1874年11月2日
- ・従業員数 4,664人（2016年4月現在）
- ・資本金 10億
- ・売上高 6,558億円（2015年度、グループ売上高）
- ・所在地 東京都千代田区大手町1-7-1
- ・東京本社 代表取締役会長 白石 興二郎 代表取締役社長 山口 寿一

2. 実習内容

各部署の役割の解説、現役記者による講義、模擬的な記者会見や事件取材、印刷工場や本社企画展の見学、原稿執筆体験、報道写真の撮影実習など

3. 実習の成果

講義や模擬取材、印刷工場の見学などを通して、読売新聞社の企業沿革や社説の方向性、キラーコンテンツ、紙面完成までの工程や現場記者の苦労などは概ね理解することができました。これは私にとっては非常に意義深い収穫であり、正直に言うと私は、このインターンシップ参加以前は、現在の日本のジャーナリズムというものは退廃的かつ盲目的で、ビジネス優先の形骸化した存在であると悲観していました。しかし、今回のインターンシップから業界内部を深く観察してみると、新聞各社が、報道機関かつ言論機関である自身の担う役割を重く受け止め、各々の報道哲学と主義主張に基づいて紙面を作成している実態を間近に見ることができ、安心することができました。印象に残った出来事は模擬事件取材です。私たちインターンシップの学生が記者役に、本社部員の方々が取材対象役に扮して実際の取材現場を体験するというもので、今回の取材対象は殺人事件によって家族を奪われたばかりの遺族でした。当然ながら、深い悲しみに暮れる遺族を相手に情報を引き出すことは容易ではありません。現場では言葉に窮しながらも、相手の立場に立つ寄り添った取材というものが、遺族取材の現場には求められるということ、自身の身を以て深く実感することができました。

4. 実習の感想

まず第一に感じたことは「記事を書くことの難しさ」です。事実関係の精確性や表現の中立性の担保、取材で得た情報をニュースバリューに沿って価値判断・取捨選択し、限られた字数、限られた時間の中で簡潔かつ精確に記事として纏め上げる。こうした作業は非常に苦労を要しました。また、特に印象深い出来事は、模擬記者会見後の総評で、部員の方に言われた「君の放った軽率な発言が情報提供者の人生を狂わせた」という一言です。模擬会見の内容は「輸入自転車を取り扱う国内企業の商品にブレーキの欠陥が見つかり、負傷者が発生したため、対象製品のリーコールを行う」という主旨のものでしたが、あろうことか私は、その企業の社員から得た内部告発情報の提供者を公の場で暴露してしまったのです。本来、情報源の秘匿に関する事項はメディアにとっての大原則であり、人権保護の観点からも最優先に守られなければならない事柄です。会見の場で新鮮な情報を得たいという傲慢な気持ちが先行し、メディアの大原則を犯してしまった私には、紛れもなくジャーナリストとしての

責任感の欠如と認識の甘さがありました。自分の書いた記事が人間一人の人生を狂わせる。そうした「ペンの重さ」というものを、改めて、深く、痛感した次第であります。今回、読売新聞東京本社のインターンシップに参加してみて、記者職の現実と疑義を突き付けられたと同時に、自己分析や業界・企業分析の重要性を再確認した非常に有意義な体験となりました。

— 実習プログラム —

日数	実習日	実習内容
1日目	8月22日(月)	オリエンテーションと自己紹介・読売新聞の編集方針・読売センター概要説明
2日目	8月23日(火)	編成部の仕事・夕刊編成作業と編集局の見学・制作局の仕事・模擬記者会見
3日目	8月24日(水)	府中印刷工場の見学と印刷工場について
4日目	8月25日(木)	記事作成演習1・模擬取材体験
5日目	8月26日(金)	記事作成演習2・作文執筆体験
6日目	8月29日(月)	記事作成演習3・論文執筆体験
7日目	8月30日(火)	英字新聞について・写真部の仕事・撮影実習体験
8日目	8月31日(水)	紙面コンテンツ「顔」の取材と原稿執筆体験
9日目	9月1日(木)	販売局の仕事・広告局の仕事・事業局の仕事・本社主催イベントの見学(世界鉄道博)
10日目	9月2日(金)	中央公論新社の仕事・特別講義(文化部記者・支局若手記者・政治部総理番記者)